

技能五輪全国大会

第37回静岡大会（造園職種第1回）

記念すべき造園職種の第1回大会は静岡県のポリテクセンター静岡で開催された。

初の五輪大会参加であるため、すべてが試行錯誤の連続で、来場者に選手の技を見て貰うなどという余裕はまったく無く、とにかく無事に大会を終了することのみ考えていたというのが正直なところであった。しかし、参加選手は地元・静岡県を中心に北海道から九州まで25名（うち女性1名）が熱闘を展開し、大会を盛り上げて頂いた。この大会（10月23～24日）の後、11月10日からカナダで開催される第35回技能五輪国際大会のデモンストレーション競技に日本選手を派遣しているため、国際大会の情報収集も平行して行われた。

- 課題は、
- ◆階段と土留め…枕木を使って階段と土留めを施工する。
 - ◆ウッドウォール…同じく枕木を三段積みで施工する。
 - ◆石貼り…砂岩（サンセットピンク）を使って石貼りをを行う。砂ぎめで目地とする。目地の芋目地や通し目地などの禁忌はないか、美しく仕上がっているかが選手の技能の見どころ。
 - ◆敷石…御影の板石を使って土ぎめで敷設する。
 - ◆生垣の施工…支給された材料（ボックスウッド）で生垣を高さ500ミリ、幅200ミリで刈り込む。
 - ◆張芝・敷砂利…図面のように曲線を描き施工する。曲線の出し方がポイント。
 - ◆草花の植え付け…支給された草花は修景を考慮して植え込む。

これらの作業を標準時間7時間30分で行うものである。

第38回埼玉大会（造園職種第2回）

造園職種の第2回目となる第38回技能五輪埼玉大会は、11月10日（金）～11日（土）さいたまスーパーアリーナで開催された。

今大会は翌年韓国で開催される第36回技能五輪国際大会の選考会を兼ねて開催し、選手は年齢21歳以下限定で2名一組の16チームが参加した（国際予選会の参加年齢制限はその後緩和されるが、国際大会に派遣されるのは全国大会時に21歳以下であることは現在も変わっていない）。この埼玉大会からは、開催地の県木や県花をはじめとする「ご当地の特徴」を課題に盛り込んでPRすると共に、静岡大会の反省から観客に技を見て頂き、造園をアピールするための資料の配付を積極的におこなった。

課題は、カナダ・モントリオール大会の課題をベースに設定され、間口5.0m×奥行き3.5mの区画に、はじめに3種類の規格の御影石を使った石積（小端積み）を空積みで行うもので、合端には小石材を入れて絶妙なバランスをとるのだが、ここに選手の技能レベルを見ることが出来る。次ぎに、御影石の石敷き、砂岩（サンセットピンク）の石貼りと続く。石貼りの砂岩をこやすけや端切りノミなどで割り、目地を美しく極められるか（もちろん芋目地などのタブーは論外）に技能の差を伺うことが出来る。

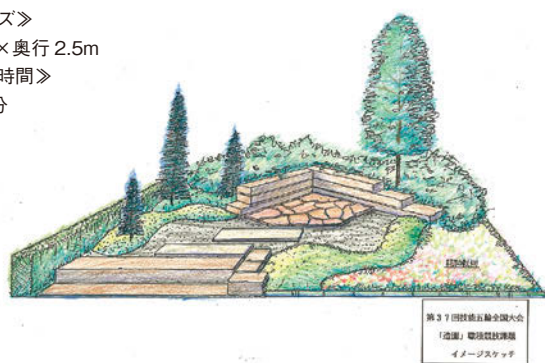
また、正面左に見える枯れ流れは、近くを流れる荒川の河原をイメージしたものだ。植栽の方は、埼玉県県木であるケヤキの高木をシンボルツリーに配し、さらに翌年の国際大会が行われる韓国を代表する木の「ムクゲ」、さらに正面中央には埼玉県の花であるサクラソウ（開花時期の関係でプリムラ＝「西洋サクラソウ」で代用）を植え込み、花の植え方と配色に選手の感性を見ることが出来る。

技能五輪全国大会は、青年技能者が技の日本一を競う競技大会で、技能尊重機運の醸成、次代を担う人材育成等を目的に昭和38年から開催されている。造園競技は平成11年度より正式種目に採用された。毎年異なるデザインの課題庭園が出题され、選手は支給材料を使い制限時間内に課題を完成させる。技とセン

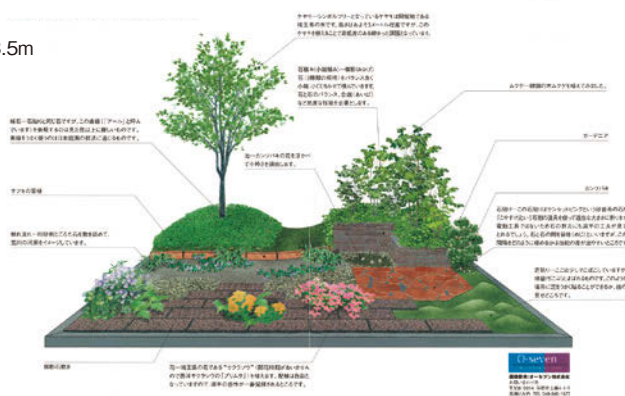
ス、正確性、スピードなど総合力が必要とされる高度な内容の競技大会となっている。国際大会の予選を兼ねた年（隔年）は2人作業で、その他の年は1人作業で競技を行う。造園競技が始まって以来、造園連は、選手の派遣から大会運営に至るまで、大会の成功にむけて毎年支援を続けている。



《区画サイズ》
間口3.0m×奥行2.5m
《作業標準時間》
7時間30分
※1人作業



《区画サイズ》
間口5.0m×奥行3.5m
《作業標準時間》
9時間30分
※2名一組作業



第39回福島大会（造園職種第3回）

造園職種第3回目となる第39回福島大会は、国内のみの大会として行われ、参加資格年齢23歳以下の一人作業であり、全国から32名の選手が参加した。

開催地の福島県からの参加が多いのは当然として、来年開催の熊本県やその次の新潟県などからも選手の参加があったのは、少しずつであるが業界内でも技能五輪というものが浸透してきた証であると、競技委員全員が喜んだ。

課題は、間口3.0m×奥行2.5mの区画に、枕木を使用した階段と土止め、中央には御影石の小端（小口）積とその前に、砂岩の石貼りを施工する。

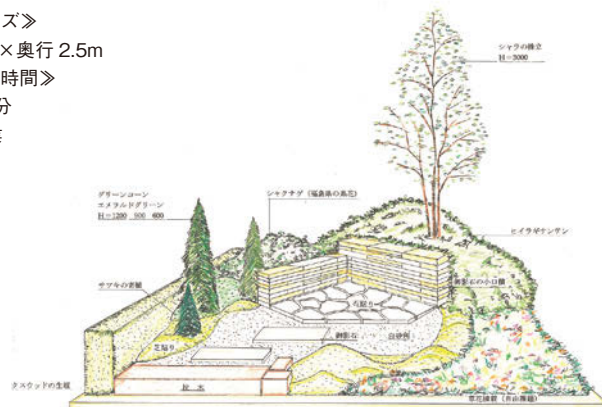
共に道具を使って石を割るのだが、サンダーの様な電動工具は使えないため、すべて手作業で行わなければならない。ここは選手の技能のレベルをはかることが出来るポイントだ。また、石貼りの方は、目地の仕上げが如何に美しく仕上げられるかに選手の感性も見られることも出来る。

植栽はボックスウツの生垣を施工し、正面中央右にはシャラの株立ち、左側にはコニファー類を植、剪定をして整姿する。草花植栽は、福島県の県花「シャクナゲ」や現地で調達した草花を自由に植栽するもので、配色の具合が見所。

曲線や地こぼ部分の貼り芝には相当なテクニックが必要だ。



《区画サイズ》
間口3.0m×奥行2.5m
《作業標準時間》
8時間30分
※1人作業



第40回熊本大会（造園職種第4回）

造園職種第4回目となる第40回熊本大会は、翌年スイス・ザンクトガレンで開催される第37回技能五輪国際大会の予選会であり、2日間の日程で標準時間10時間30分を2名一組で戦うというものである。選手は地元熊本県を中心に九州ブロックの選手の他、昨年の開催地である福島県からも2組の選手が参加し、合計で17組34名の選手が全国から集まった。課題は開催地である熊本県にちなんで、熊本城や阿蘇山などの名勝を多く取り入れて表現し、和風庭園とガーデニング的な要素が鑑められた、まさに現代の庭園に相応しい課題に仕上がっている。

内容は、御影の切石敷設、石積み、レンガ敷きテラス、石貼りと続いていく。特に石積みは、今回より、難度の高い“野面積み”とし、地元の鹿北石を使用して、熊本城の石垣をイメージした。野面積みの場合、自然石を割ったり、はつったりして、バランス良く積むことは当然であるが、その前に根石や天端石、角石と言った「石を選び出す」という作業が重要になってくる。

21歳以下の技能者の石を選ぶ目と如何にバランス良く石を積むかが一番の見所であろう。

レンガ敷きテラスは、アンティークレンガを砂ぎめで敷設するが、一部を加工して花壇とし、熊本県の県花「リンドウ」を植える。植栽は、正面奥にシンボルツリーとして熊本県の県木・クスノキ（3m）、手前にエゴノキ（2m）を植栽して遠近感を出して奥行きある空間を演出している。

また、芝貼りは所々に阿蘇の山並みに見立てた地瘤を設け、そこに芝をうまく貼り込むことが出来るかが技と感性の見せ所となっている。



《区画サイズ》
間口5.0m×奥行3.5m
《作業標準時間》
10時間30分
※2名一組作業



第 41 回新潟大会（造園職種第 5 回）

造園職種第 5 回目となる第 41 回新潟大会は、第 39 回の福島大会と同じく国際大会の予選会ではない 1 人作業の大会である。

選手は、女性 2 名を含む 35 名が全国より参加した。今大会は終始雨に悩まれ、排水ポンプや土壌改良資材を投入するなど最悪のグランドコンディションの中で行われたが、埼玉県テクノ・ホルティ園芸専門学校や山口県立宇部西高等学校など在学中の選手が出場したほか、出場した女性選手 2 名が共に入賞し、マスコミから注目を集めるなど話題性に富んだ記憶に残る大会であった。

課題は、3.5 m × 2.5 m の区画に石積み（野面積み）、砂岩の乱貼り、御影石の敷設などの石作業に続き、竹垣の自由施工では、選手各自が意匠を凝らした創作垣を施工し、観客の目を楽しませた。

植栽では、主木に高さ 2 m のシャラの株と新潟県の県木ユキツバキを配し、ヒラギナンテンやサツキの寄せ植えでグランドカバーとした。また、草花植栽は新潟県の県花チューリップを中心に 4 種類の花物を植える。配色や色彩デザインに選手のセンスを見ることが出来る。



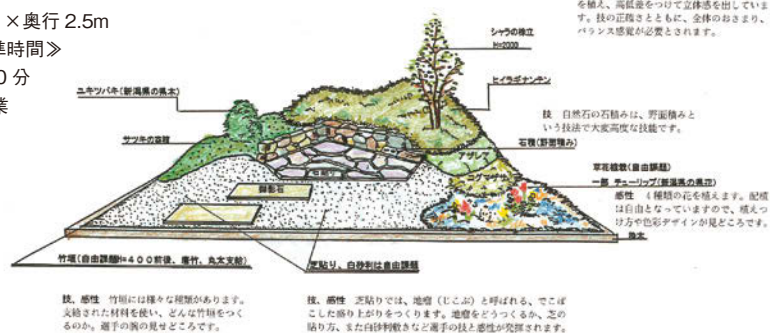
《区画サイズ》

間口 3.5 m × 奥行 2.5 m

《作業標準時間》

11 時間 00 分

※ 1 人作業



第 42 回岩手大会（造園職種第 6 回）

造園職種第 6 回目となる第 42 回岩手大会は、翌年フィンランド・ヘルシンキで開催される第 38 回技能五輪国際大会の予選会である。

今大会から出場選手の年齢制限が緩和され、国際大会の予選会であっても年齢が 23 歳以下の選手ならば出場が可能となった。(ただし、国際大会に派遣されるのは、年齢 21 歳以下で変更ない。この制限は、国際大会が 22 歳以下の選手によって行われることによる) 造園職種の技能五輪大会では、毎年、女性選手の参加が増えており、今回も 19 組 38 名の出場選手のうち、4 名が女性であった。(そのうち 3 名が入賞)

また、今回から南九州大学と京都府立農芸高等学校が初参加し、高校は 2 校が参加するようになった。

全国大会の課題は、徐々に国際大会の課題を意識したものになってきており、今大会の課題もレンガを使用した広場や木柵などが盛り込まれた和と洋の技法が織り交ぜられたものとなっている。

内容は、3.5 m × 5 m の区画に御影石の石積みと石組み、レンガ張り、園路、木柵、植栽、芝張り、草花の植え付けを行う。

また、課題には開催地の特徴を入れることが慣例となっており、岩手県の木・アカマツとリアス式海岸をイメージした石組み、また 2 色のオーストラリアレンガを使ったレンガ張りには、岩手県のシンボルマークと中央職業能力開発協会のマークをイメージした菱形の切り込みを作り、花物を植えて華やかさを演出した。



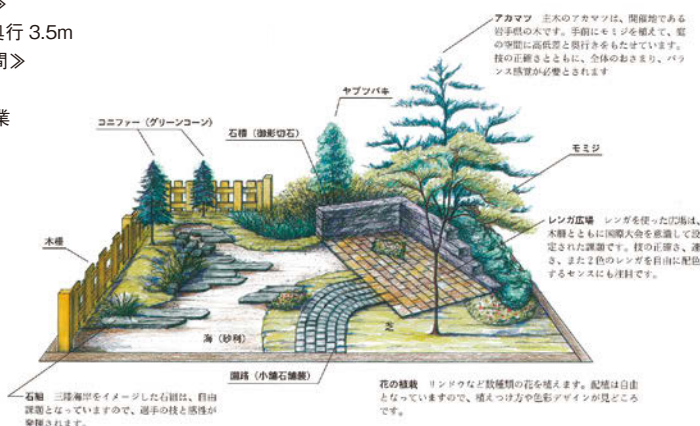
《区画サイズ》

間口 5.0 m × 奥行 3.5 m

《作業標準時間》

11 時間 30 分

※ 2 名一組作業



第43回山口大会（造園職種第7回）

造園職種第7回目となる第43回山口大会は、国際大会の予選会ではないため、1人作業で、出場資格も年齢23歳以下であったが、来年の香川大会（国際大会予選会）、そして再来年の静岡県での国際大会に向けた前哨戦と位置づけ、国際大会の出場資格がある若い選手を選抜し、十分な訓練を施して、闘いに望んでいた。

選手は青森県から宮崎県まで女性3名を含む40名の選手が出場した。

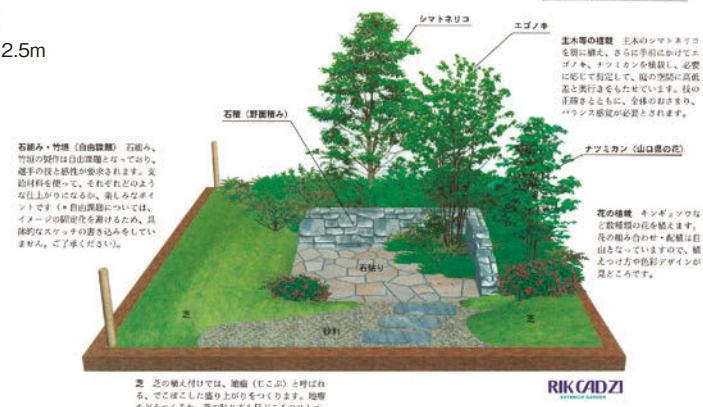
今回の課題は、3.5m×2.5mの区画に大分県の耶馬溪産の石を使った石積み（野面積み）と砂岩の石貼り、山口県の名勝地・秋吉台をイメージした石組み、御影石の敷石等の石作業が続き、支給された竹垣材料を使った自由課題の竹垣は、選手が思い思いの創作竹垣を作りあげた。

植栽は、主木にシマトネリコを奥に植栽し、その手前にエゴノキ、山口県の花・ナツミカン等を盛り込んだ。地瘤の芝貼りや曲線を活かした砂利敷きも線種の技能が発揮される箇所である。

2日間にわたる熱闘の結果、第1位の金賞、2位の銀賞とも女性が入賞し、女性の活躍が目立った大会となった。



《区画サイズ》
間口 3.5m × 奥行 2.5m
《作業標準時間》
11 時間 00 分
※ 1 人作業



第44回香川大会（造園職種第8回）

造園職種第8回目となる第44回香川大会は、翌年の静岡（沼津）で開催される第39回技能五輪国際大会の予選会である。

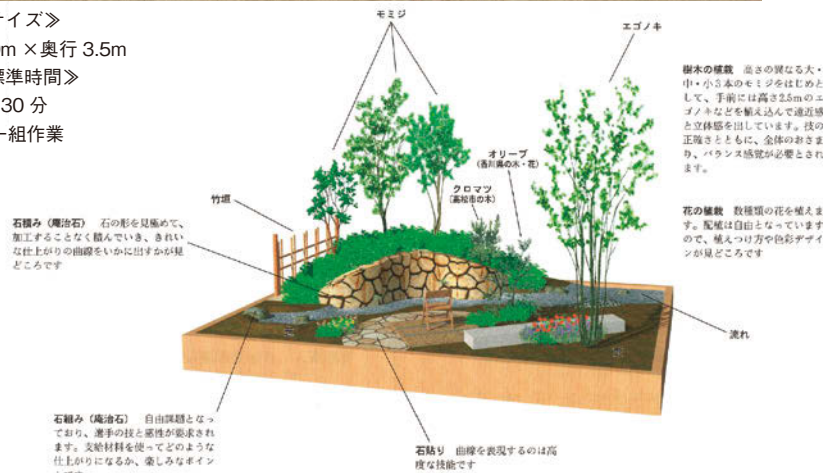
日本で開催される国際大会の選手を決める選考会であり、出場チームにはメダルの獲得を至上命題としていた。このため造園連では、年齢21歳以下の国際大会出場資格のあるチームとコーチを静岡県の富士教育訓練センターに集め、宿泊をしながら基本技能の取得や図面の読み取り方など実技と座学を夜遅くまで猛特訓を行って臨んだ。

課題は、全国にその名を知られている「庵治石」を使った石積みと自由配置の石組みを行う。石積みは、讃岐富士をイメージしており、横方向と縦方向にやわらかな曲線で仕上げるようになっている。その前を流れる砂利敷きも曲線で現し、ゴロタ石の州浜、その奥に見えるクロマツ（高松市の木）とともに美しい瀬戸内海の浜辺の景観を現している。その前には砂岩（サンセットピンク）の乱貼り、白御影と錆御影の2色の敷石、香川県の木と花であるオリーブの植栽、大・中・小の大きさの異なるモミジと高さ2.5mのエゴノキの植栽など開催地の特色がふんだんに盛り込まれた課題に仕上がっている。

また、竹垣は当日に仕様を公開した。これは、国際大会で当日に突然モジュールが変更になることがあり、選手が臨機応変に対応できるかを見るためである。



《区画サイズ》
間口 5.0m × 奥行 3.5m
《作業標準時間》
11 時間 30 分
※ 2 名一組作業



第45回中央協会大会（造園職種第9回）

造園職種第9回目となる第45回大会は、中央職業能力開発協会の主催で行われた。

今回は、静岡県で開催された技能五輪国際大会の影響で、開催時期が大幅にずれた3月の開催であり、年齢制限も昭和59年1月1日以降に生まれた者となっている。

開催する会場も職種の自由が与えられ、造園職種は東京都立木場公園・ふれあい広場という都心の真ん中での開催となった。

《課題》

◆石積…山梨県神座山の神座石を使った石積みは角度が与えられている。左側の角は段逃げ（段落ち）としている。

◆小舗石敷き…延段を挟み込むように敷設された小舗石のストーンサークルは、割らずに砂目地で極める。うまく円が作れるかがポイント。サークルの中央にはシャラノキの植栽と季節の花の植え付けにウッドチップが敷かれている。

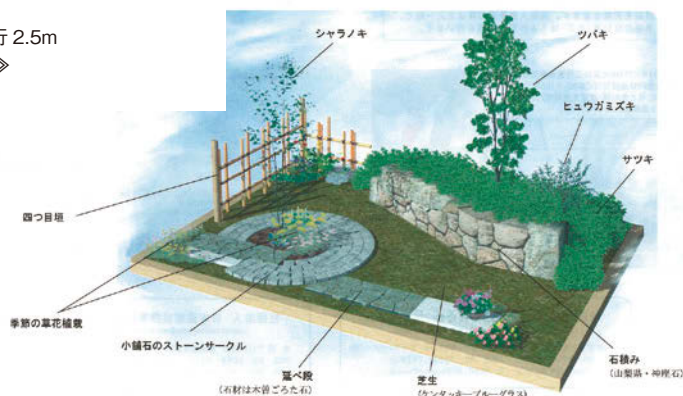
◆延段…検定用の切石と木曽ゴロタ石で敷設する。切石の上にテラコッタの花鉢を置き、季節の花を盛って華やかさを演出している。

◆垣根…指定された位置に四つ目垣を施工する。

◆樹木植栽…ツバキ1本と3本立ちのヒュウガミズキ1株、低木はサツキを植栽し、見栄えを考慮した剪定を施しても良い。



《区画サイズ》
間口 3.5m × 奥行 2.5m
《作業標準時間》
11 時間 00 分
※ 1 人作業



第46回中央協会大会（造園職種第10回）

造園職種は節目となる第10回目を迎えることとなった。この大会は、千葉県のポリテクセンター千葉で開催され翌年のカナダ・カルガリーで開催される第40回技能五輪国際大会の予選会となっている。

この大会には学生チームとして高校生4チーム、大学生1チームが参加し、高校生チームが銀賞に入賞するなど学生の活躍が目についた大会であった。

前回の国際大会予選会であった香川大会同様に、国際大会に出場資格のあるチーム（年齢21歳以下のチーム）には、基礎技能の習得と図面判読や国際大会のルール、国際大会出場経験者との交流などの強化研修を実施した。

《課題》

◆石積み…石積みは左右2種類を制作する。

(1) 右側の石積みは御影石を使った小端積（小口積）を行う。正面から見える2面は、コブ出し仕上げとし、季節の花を修景を考慮して植え付ける。

(2) 左側の石積みは砂岩の小端積で、終わりの2箇所は、生け込みとする。こちらも季節の花物を植える。

◆小舗石敷きとレンガ敷き…共に砂ぎめで施工するが、オーストラリアレンガのテラスとS字カーブを描いた小舗石敷きの園路との接点部分は、レンガを4つ以上加工する。

◆石貼り…板石を使用し、乱張りをする。

◆敷き砂利…砂と砂利を使い、曲線で枯れ池を作る。

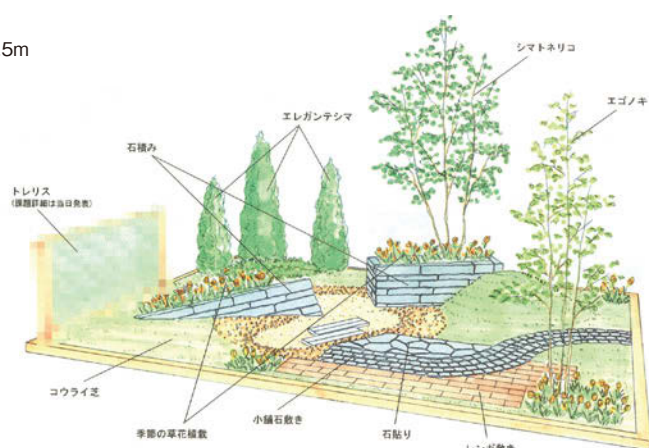
◆敷石…石積み用の砂岩を使って敷石を施工する。

◆トレリス…支給された材料を使用して、所定の位置にトレリスを施工すること。詳細図は当日に公表とする。

◆植栽と草花植え付け…支給された樹木及び草花を修景を考慮して土ぎめで植え付ける。



《区画サイズ》
間口 5.0m × 奥行 3.5m
《作業標準時間》
11 時間 30 分
※ 2 名一組作業



第 47 回茨城大会（造園職種第 11 回）

第 47 回大会の競技は、茨城県の「ひたちなか市総合運動公園」で 10 月 24 日～25 日にかけて行われ、全国から 24 名が参加した。競技課題は、水戸の偕楽園に由来する垣根の製作や、地元産の材料の使用、県花バラの植栽など開催地ならではの要素を盛り込みデザインされ、1 人作業で競技が行われた。またこの大会で、競技前日の課題説明の際に、計測箇所が選手に公表され、以降毎年、大会期間中に課題計測箇所の公表が行われている。

《競技課題》

◆石積み…地元産つくば石を使って野面積みを行う。ゆるやかな山型のシルエットで、真上から見ると、くの字になるよう角度が与えられている。高さが 3 ヶ所指定されている。施工では、支給された石材の中から角石などの確に選び、積む技能、指定された高さに収める正確性、作業のスピード等が求められる。

◆石敷き…小舗石の敷設・ごろた石敷きの曲線表現は、技とセンスの見せどころ。

◆竹垣…指定された位置に偕楽園垣を施工する。見本が競技前日に会場に展示された。

◆植栽…主木のシマトネリコを奥に、手間にかけてツバキ、モミジを植栽し、必要に応じて剪定して、庭に高低差と奥行きを表現する。草花と下草の一部は自由配置となっている。



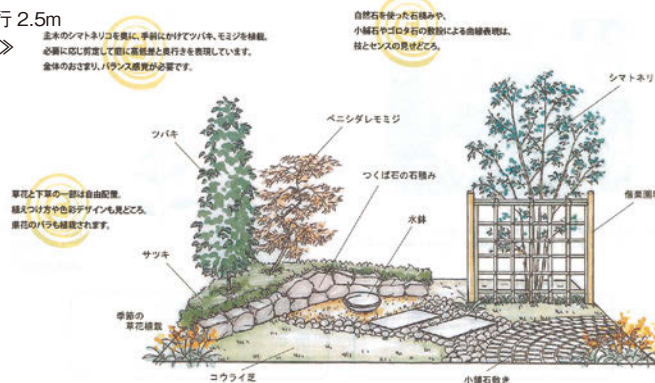
《区画サイズ》

間口 3.5m × 奥行 2.5m

《作業標準時間》

11 時間 00 分

※ 1 人作業



第 48 回神奈川大会（造園職種第 12 回）

第 48 回大会は、イギリス・ロンドン大会の予選も兼ねて横浜市・みなとみらい 21 地区で開催された。2 人一組作業。競技課題もロンドン大会を意識した内容で、石積み、石敷き、石貼り、木製アルコープ作製やウッドフェンスなどの木工、植栽、芝張りなどで構成されている。採点方式は国際大会に準じてモジュール採点方式が導入され、2 日目の作業終了時にすべて採点するのではなく、初日の作業終了時点で、指定された作業範囲についての採点が行われた。競技には 18 組 36 名が出場し、その中で高校生 16 名、大学生 3 名、専門学校生 1 名と学生の出場者が半数を超え、学校関係者にも広く技能五輪が認知されつつあることが伺えた。女性は 5 名が出場した。

《競技課題》

◆石積み…御影石の小端積み。こぶ出しするよう指定されている。

◆石貼り…サンセットピンク（砂岩）の加工、曲線の仕上げがポイント。

◆石敷き…板石、小舗石の敷設

◆木工…木製アルコープとウッドフェンスは事前に詳細図が示され、ベンチは一部既製品を利用した材料支給となり競技当日、見本が展示された。

◆植栽…ヒメシャラ、ソヨゴ、コニファーを植栽、ボックスウッドの生垣植栽、草花は指定されたエリア数箇所の中で自由配置となっている。

◆芝張り…目地なし、目土なしで図面のように施工する。



《区画サイズ》

間口 5.0m × 奥行 3.5m

《作業標準時間》

11 時間 30 分

※ 2 名一組作業



第 49 回中央協会大会 (造園職種第 13 回)

東日本大震災の影響により、第 49 回大会は、開催地や開催日程が決まるのが長引き年末の 12 月 16 日～19 日開催となった。中央職業能力開発協会主催で、東静岡駅前での開催となった。1 人作業の競技で、課題は砂岩による石積み、ウッドデッキの製作、サンセットピンクの石貼り、敷石、竹垣(自由)、ヒメシャラとサザンカの植栽、花草植栽、芝張り。特に竹垣は、支給材料を使って自由な発想で竹垣を施工する内容で、様々な意匠の垣根が各区画で出来上がった。31 名が出場。学生の出場者も半数を占める中で、今大会より、造園連と日造協の両団体で、学生の上位 3 名(組)を表彰する学生 3 賞制度を立ち上げ、表彰状を贈呈した。

《競技課題》

◆石積み…詳細図が示され、砂石(600×100×80～90 内外 50 本、600×100×40～50 内外 40 本)を使い石積み施工し、花壇をつくる。

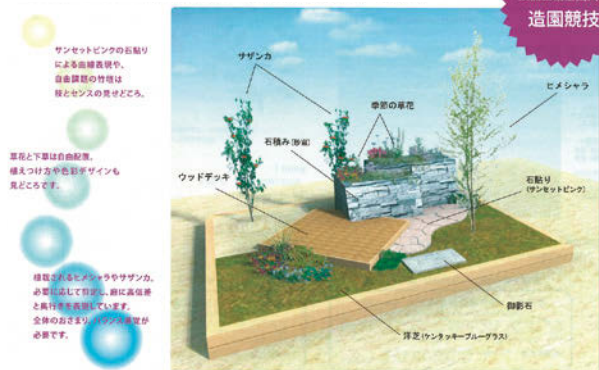
◆竹垣…支給された材料(【丸太 3 本】末口 60、長さ 1200、【唐竹 5 本】4 節上り回り 70～90)を使って、自由に竹垣を施工する。柱は指定された位置に設置し木杵に固定する。

◆ウッドデッキ…詳細図が示され、図面の通り施工を行う。

◆植栽…ヒメシャラやサザンカは必要に応じて剪定し、高低差と奥行きを表現する。全体のおさまり、バランス感覚が必要。草花植栽は、指定箇所の中で自由配置。色彩デザインも見どころとなる。



《区画サイズ》
間口 3.5m × 奥行 2.5m
《作業標準時間》
11 時間 00 分
※ 1 人作業



第49回
技能五輪全国大会
造園競技

第 50 回長野大会 (造園職種第 14 回)

第 50 回大会は、ドイツ・ライプツィヒ大会の予選も兼ねて諏訪湖イベントひろばで開催され、2 人一組の作業で競技が行われた。全国から 19 組 38 名が出場した。ドイツで開催される国際大会を見据え、ビオトープを表現する流れやモウッコウバラのアーチなどを課題に取り入れたほか、地元産の鉄平石を使用した園路や小端積み、シラカバとモミノキの植栽など開催地ならではの要素も盛り込まれた競技課題となっている。造園連・日造協の両団体による学生 3 賞表彰も前回に続き実施された。

《競技課題》

◆石積み…【野面積み】自然石約 1.5 トン(径 400 内外～100 内外)を使って指定箇所に野面積みを行う。高さの指定あり。【小端積み】長野県産の鉄平石(300×80×30・24 本、300×80×50・40 本)を使い小端積みで花壇をつくる。

◆石敷・園路・石貼り…小舗石・鉄平石・サンセットピンクなどを使い施工。曲線表現が技とセンスの見どころ。

◆ごろた敷・流れ…黒のごろた石と白砂利、水辺の植物でビオトープを表現する。流れ(白砂利)の下には支給された防水シートを敷く。

◆バラのアーチ…詳細図が示され、支給された木材等を使用し図面の通り仕上げる。モウッコウバラを植えつけ、つるを柱にとめる。



《区画サイズ》
間口 5.0m × 奥行 3.5m
《作業標準時間》
11 時間 30 分
※ 2 名一組作業



■技能五輪全国大会履歴

■第37回静岡大会（造園職種第1回）

◇日程／平成11年10月22日～25日 ◇会場／ポリテクセンター静岡

◇出場者数／25名

【金賞】渡辺治寿（株望月庭園）静岡【銀賞】大村貴洋（株庭常）静岡|小野田洋（株岐阜造園）岐阜【銅賞】上澤達也（南遠州松寿園）静岡|池田武（宮城島園芸）静岡【敢闘賞】川崎智加司（南かわさき造園）佐賀|田中邦貴（株庭仁）静岡|渡邊俊宏（藤原造園株）静岡|泉田幸仁（むつみ造園土木株）秋田|櫻井涉（南庭建はしもと）北海道|藤倉夢（栗田造園）東京

■第39回福島大会（造園職種第3回）

◇日程／平成13年10月26日～29日 ◇会場／ビックパレットふくしま

◇出場者数／32名

【金賞】杉岡康平（双葉グリーン土木株）福島【銀賞】横井信（株植留緑化土木）福島|上野則秋（南カトー庭苑グリーンエクステリア）長野【銅賞】熊田裕一（南日昭造園）福島|吉田誠也（株相川造園）東京【敢闘賞】山河和彦（南西東植物園）福島|成田文則（株磐梯園）福島|馬場秀幸（株花喜）福島|諸橋賢太郎（株植留緑化土木）福島|寺嶋隆之（南伊藤造園）宮城|成田宗弘（南近藤造園）福島|東栄志（南東海造園）東京|松田洋平（株英香園）新潟|入澤賢史（南秀庭園事務所）新潟|室園一也（南青光園）福岡

■第41回新潟大会（造園職種第5回）

◇日程／平成15年10月24～27日 ◇会場／新潟市産業振興センター駐車場

◇出場者数／35名

【金賞】井手隆一（大川内造園株）佐賀【銀賞】浦野幸裕（株皆楽園）熊本|小林英則（南岡部造園）山口|川田光男（南川端造園）東京【銅賞】前山幸輝（株旭日緑化建設）佐賀|徳永瞳（和晃造園）熊本|入澤賢史（南秀庭園事務所）新潟【敢闘賞】小野豊（奥本造園）愛媛|宮原正明（宮原園芸）福岡|坂上大輔（南斉藤造園）新潟|矢島武典（南グリーンデザイン）東京|馬場秀幸（株花喜）福島|仲西秀之（テクノホルティ専門学校）埼玉|寺島篤（テクノホルティ専門学校）埼玉|武居慶一（南沖田造園）山口|池端潔（伊勢造園建設株）熊本|河野佐代（株高山造庭園）山口

■第43回山口大会（造園職種第7回）

◇日程／平成17年10月28～31日 ◇会場／維新百年記念公園第2球技場

◇出場者数／40名

【金賞】河野佐代（株高山造庭園）山口【銀賞】吹上笑美（株多々良造園）山口|千田和樹（衣川造園）岩手|小林英則（南岡部造園）山口【銅賞】石井志郎（南ジープレーン）福岡|今田博（株西条庭園）広島|池田祐章（大川内造園株）佐賀【敢闘賞】太田友和（南藤本エクステリア）長野|関根慎二（南造園あさかわ）福島|廣中雄一郎（テクノホルティ園芸専門学校）埼玉|藤城聖人（株高山造庭園）山口|武居慶一（南沖田造園）山口|駒木根佳範（駒造園株）福島|植野剛史（南岡部造園）山口

■第45回中央協会大会（造園職種第9回）

◇日程／平成20年2月29～3月3日 ◇会場／東京都立木場公園ふれあい広場

◇出場者数／22名

【金賞】久保正伸（株伊万里春光園）佐賀【銀賞】山口貴大（南山真造園）佐賀|藤崎賢博（南岡部造園）山口|藤田紳太郎（南富士造植園）静岡【銅賞】安藤諒太郎（安藤造園）福島|佐々木千枝子（南九州大学）宮崎|藤田竜次郎（南富士造植園）静岡【敢闘賞】吉田祐（南白田園）鳥取|割貝達也（南古平園）茨城|白石勇人（南若松緑地建設）福岡|山口裕二（ヤマト造園）東京

■第47回茨城大会（造園職種第11回）

◇日程／平成21年10月23日～10月26日 ◇会場／ひたちなか市総合運動公園

◇出場者数／24名

【金賞】藤崎賢博（南岡部造園）山口【銀賞】池田典史（宮崎県造園技能士会）宮崎|大澤力也（南大沢造園）東京|小松彰（安藤植木株）神奈川【銅賞】渡邊大介（今田作庭園）香川|菱沼翔太（株大平造園土木）茨城|白石拓也（南若松緑地建設）福岡【敢闘賞】松田大樹（南松田庭園）大分|堀高郎（株森芳楽園）山口|成富勝彦（株旭日緑化建設）佐賀|塚本将太（石岡第一高等学校）茨城|割貝竜也（南古平園）茨城

■第49回中央協会大会（造園職種第13回）

◇日程／平成23年12月16日～12月19日 ◇会場／東静岡駅前再開発地

◇出場者数／31名

【金賞】白石拓也（南若松緑地建設）福岡【銀賞】菱沼翔太（株大平造園土木）茨城|松田大樹（南松田庭園）大分|岸本賢一（磯城野高等学校）奈良【銅賞】木下智博（南九州大学）宮崎|高倉智幸（株和泉園）東京|永塚未貴（綿半インテック株）長野【敢闘賞】赤尾承起（南アートランド）長野|伊藤竜太（株西条庭園）広島|小野田佑輔（株大場造園）東京|赤尾英亮（南アートランド）長野|岩崎泰子（綿半インテック株）長野|内田勇氣（宇部西高等学校）山口

■第38回埼玉大会（造園職種第2回）

◇日程／平成12年11月9日～12日 ◇会場／さいたまスーパーアリーナ

◇出場者数／16組32名

【金賞】安斉賢三（小杉造園株）+足立健（南グリーンデザイン）東京【銀賞】安澤裕一+清水知則（共にテクノホルティ園芸専門学校）埼玉|宮内 智弘（南ガーデン森）+山本文雄（山本造園）埼玉【銅賞】中島浩明（南樹幸苑緑化）+矢口光太郎（株矢口造園）埼 玉|大岩寛之（清沢造園株）+窪田篤人（清沢造園株）富山【敢闘賞】後藤将博（南植金）+榎本学（東京農業大学）埼 玉|本村祐紀（株天本緑地造園）+牧瀬正樹（山口造園）佐 賀|小泉章仁（株八廣園）+守屋佐和子（守屋生産農場）埼 玉

■第40回熊本大会（造園職種第4回）

◇日程／平成14年10月17日～20日 ◇会場／パークドームくまもと

◇出場者数／17組34名

【金賞】杉岡康平+赤井俊典（共に双葉グリーン土木株）福島【銀賞】嘉村浩伸（株江里口造園）+井手隆一（大川内造園株）佐賀【銅賞】吉田敦司（株高取造園土木）+高根寿利（株旭日緑化建設）佐賀|川口竜太（南大嶋造園）+堀井啓介（清和園）熊本【敢闘賞】熊田裕一（南日昭造園）+馬場秀幸（株花喜）福島|池田昌士（南総合緑地）+山本真生（日本緑化専門学校）熊本|山戸裕輔（株三共緑地建設）+上村雄介（日本緑化専門学校）熊本|柳本優弥（南野添緑地建設）+鳥越英一（南野添緑地建設）宮崎|池端潔（伊勢造園建設株）+浦野幸裕（株皆楽園）熊本|萬谷一史（伊勢造園建設株）+伊藤潤（株サングリーン）熊本|小関隆司（株英香園）+早川茂雄（若杉造園）新潟

■第42回岩手大会（造園職種第6回）

◇日程／平成16年10月22～25日 ◇会場／花巻市総合体育館多目的コート

◇出場者数／19組38名

【金賞】川村真知子+湊和道（共に南川村造園）岩手【銀賞】前山幸雄（株旭日緑化建設）+小林圭造（株古梅園）佐賀|高田明（南龍虎園）+近藤秀行（森川ガーデン株）香川|佐々木宏隆（南佐々木造園）+千田和樹（衣川造園）岩手【銅賞】中村友梨（株相川造園）+小杉幹雄（小杉造園株）東京|澤口光（武蔵造園）+中島まゆ（株共同園芸）岩手|笹山宏（小原庭芸）+五内川知紀（南花南緑化サービス）岩手【敢闘賞】若橋友哉+宮嶋英好（共に南九州大学）宮崎|寺島篤+仲西秀之（テクノホルティ園芸専門学校）埼玉|関根慎二（南造園あさかわ）+岡田大介（双葉グリーン土木株）福島

■第44回香川大会（造園職種第8回）

◇日程／平成18年10月20～23日 ◇会場／サンポート高松多目的広場

◇出場者数／25組50名

【金賞】高田明（南龍虎園）+近藤秀行（森川ガーデン株）香川【銀賞】島田遥（株近江庭園）+水野賢（株熊本共楽園）滋賀|山田久美子（南岡部造園）+吹上笑美（株多々良造園）山口|中島まゆ+吉岡京太（共に株共同園芸）岩手|早乙女彰将+渡邊久美奈（小杉造園株）東京【銅賞】寒川弘正+藤井優司（共に緑造園興業株）香川|池田祐章（大川内造園株）+齋藤翔平（万寿園）佐賀|小田+小嶋邦彦（共に大阪テクノホルティ園芸専門学校）大阪【敢闘賞】北村真一郎+伊藤啓祐（共に今田作庭園）香川|石井志郎+河野辰紀（共に南ジープレーン）福岡|三浦悠+山内武志（株美秀園）青森|藤田紳太郎+藤田竜次郎（共に南富士造植園）静岡

■第46回中央協会大会（造園職種第10回）

◇日程／平成20年10月31日～11月3日 ◇会場／ポリテクセンター千葉（雇用・能力開発機構千葉センター）◇出場者数／13組26名

【金賞】石井志郎（南ジープレーン）+白石勇人（南若松緑地建設）福岡【銀賞】鈴木貴光（南春光園）+白井大介（株白井造園）東京|坪井翔治+永野義之（県立宇部西高校）山口【銅賞】藤崎賢博（南岡部造園）+上利春香（株高山造庭園）山口|池田典史+生方裕士（南九州大学）宮崎【敢闘賞】成富勝彦（株旭日緑化建設）+山川拓郎（株飛鳥緑化建設）佐賀|小島慎吾+折笠大（株花喜）福島

■第48回神奈川大会（造園職種第12回）

◇日程／平成22年10月22日～10月25日 ◇会場／みなとみらい21地区・20街区

◇出場者数／18組36名

【金賞】【金賞】藤崎賢博（南岡部造園）+猪野直紀（株高山造庭園）山口【銀賞】白石拓也+森根盛優（（南若松緑地建設）福岡|広井勲+平島涉平（南ガーデンコナガヤ）【銅賞】枝元大地+木下智博（南九州大学）宮崎【敢闘賞】池田雄樹+三原真子（宇部西高等学校）山口|池田典史+伊藤秀幸（文吾林造園株）長野|菱沼翔太（株大平造園土木）+野田美光（石岡第一高等学校）茨城|赤尾英亮（南アートランド）+加藤貴裕（南藤本エクステリア）長野|伊藤竜太（株西条庭園）+林健太郎（風林造園）広島

■第50回長野大会（造園職種第14回）

◇日程／平成24年10月26日～10月29日 ◇会場／諏訪湖イベントひろば

◇出場者数／19組38名

【金賞】赤尾英亮+赤尾承起（南アートランド）長野【銀賞】木下忠亮+三原諒馬（株葉隠緑化建設）佐賀|鈴木幸（株第一緑地）+湯本光（南信州緑地）長野【銅賞】石見康文+神藤司（磯城野高等学校）奈良|白石拓也+上原勇俊（南若松緑地建設）福岡|菱沼翔太+立原祥太（株大平造園土木）茨城【敢闘賞】内田勇氣（株高山造庭園）+植村和也（宇部西高等学校）山口|楠瀬勇+中辻勇輝（園芸高等学校）大阪|塚田混大+中野敬介（株英香園）新潟

技能五輪国際大会

世界への挑戦。技能オリンピックに初参加。

技能五輪国際大会は、正式には国際技能競技大会（WorldSkills Competition）と呼ばれている。この大会は1950年にスペインの職業青年団が提唱して隣国ポルトガルとの間で技能を競ったことに端を発し、現在では、世界46カ国、約900名の選手が参加する若者の技能オリンピックである。

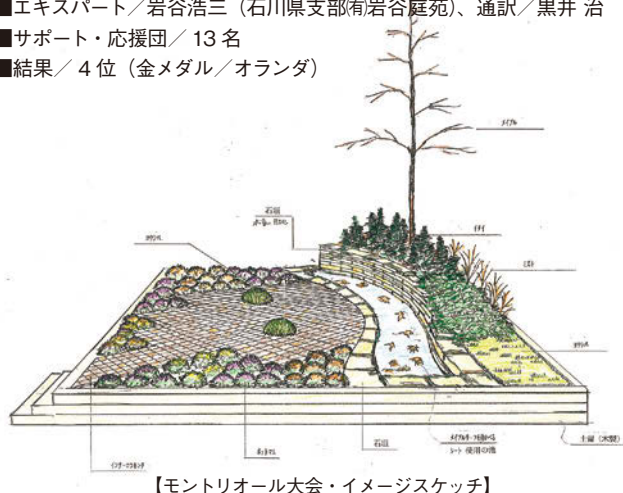
造園競技は英名を Landscape Gardening といい、1999年カナダ・モントリオール大会で新規職種として始まった。大会の参加資格は年齢22歳以下であり、造園競技は二人1組のチーム競技である。

2007年静岡県で開かれた第39回大会で念願の金メダルを獲得、日本中の造園関係者が喝采をあげた。

第35回技能五輪国際大会 「カナダ・モントリオール大会」



- 開催年月日／1999年11月10日から17日
- 開催場所／カナダ・モントリオール野球場
- 参加国／8カ国
- 選手／長谷川佳江・池上勇（東京都支部・小杉造園株）
- エキスパート／岩谷浩三（石川県支部有岩谷庭苑）、通訳／黒井 治
- サポート・応援団／13名
- 結果／4位（金メダル／オランダ）



【モントリオール大会・イメージスケッチ】

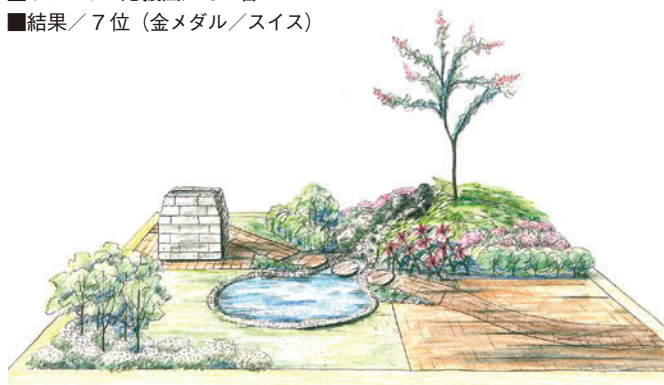


【上】モントリオール課題
【下】選手と応援団

第36回技能五輪国際大会 「韓国・ソウル大会」



- 開催年月日／2001年9月12日から18日
- 開催場所／韓国・ソウル・総合展示場「COEX」
- 参加国／9カ国
- 選手／安齊賢三（東京都支部・小杉造園株）
安澤裕一（埼玉県支部・有柳沢ガーデン）
- エキスパート／岩谷浩三（石川県支部有岩谷庭苑）
- サポート・応援団／62名
- 結果／7位（金メダル／スイス）



【ソウル大会・イメージスケッチ】



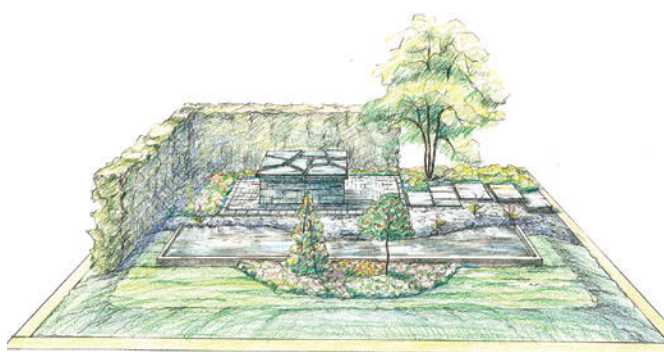
【上】ソウル大会課題
【下】選手と応援団

世界の壁は高かった。若者は果敢に挑戦。

第 37 回技能五輪国際大会 「スイス・ザンクトガレン大会」



- 開催年月日／2003 年 6 月 18 日から 6 月 25 日
- 開催場所／スイス・ザンクトガレン・オルマメッセ
- 参加国／9 カ国
- 選手／杉岡康平・赤井俊典（福島県支部・双葉グリーン土木(株)）
- エキスパート／井上花子(本部)、通訳／本田 繁(広島県支部・(株)西条庭園)
- サポート・応援団／24 名
- コーチ／後藤忠（福島県支部・後藤造園土木(株)）
- 結果／8 位（金メダル／スイス）



【ザンクトガレン大会・イメージスケッチ】

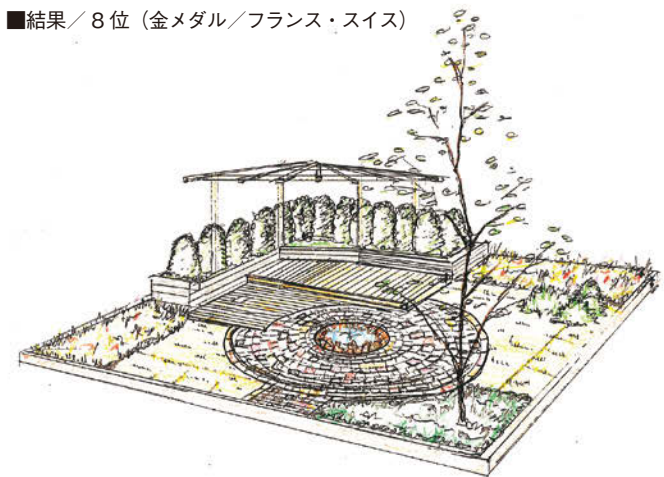


【上】ザンクトガレン大会課題
【下】選手と応援団

第 38 回技能五輪国際大会 「フィンランド・ヘルシンキ大会」



- 開催年月日／2005 年 5 月 25 日から 6 月 1 日
- 開催場所／フィンランド・ヘルシンキ・フェアウェルセンター
- 参加国／11 カ国
- 選手／前山幸輝（佐賀県支部・(株)旭日造園建設）
小林圭造（佐賀県支部・(株)古梅園）
- エキスパート／井上花子(本部)、通訳／本田 繁(広島県支部・(株)西条庭園)
- サポート・応援団／26 名
- 結果／8 位（金メダル／フランス・スイス）



【ヘルシンキ大会・イメージスケッチ】



【上】ヘルシンキ大会課題
【下】選手と応援団

みんなの力で念願の「金メダル」。

第 39 回技能五輪国際大会 「日本・静岡大会」



- 開催年月日／200 年 11 月 14 日から 21 日
- 開催場所／日本・静岡県沼津市・門池地区
- 参加国／15 カ国
- 選手／早乙女彰将・渡邊久美奈（東京都支部・小杉造園株）
- エキスパート／井上花子（本部）、通訳／本田 繁（（財）日本花普及センター）
- コーチ／池上勇（東京都支部・小杉造園株）、後藤忠（福島県支部・後藤造園土木株）
- 結果／金メダル



静岡大会課題



【静岡大会・イメージスケッチ】



世界 15 カ国の選手とエキスパート



大会風景



表彰式



厚生労働省の依頼により、ジャパンスキルズビレッジ（技能の館・9 番ホール内）に、和風庭園と竹垣の展示を次代を担う指導者養成研修会として実施した

【造園競技会場設営・運営データ】

- 設営・運営期間
2007 年 10 月 28 日から 11 月 24 日
- 設営スタッフ
《ワークショップスーパーバイザー》宇田川辰彦（本部理事）
《サブワークショップスーパーバイザー》荻原博行（本部理事）
以下東京都支部・全国青年部・静岡県支部・神奈川県支部他 42 名。延べ 164 名
- 課題設計／技術技能委員会国際大会小委員会
《実施設計担当》小林文明（茨城県支部・有小林造園）
《イメージスケッチ作成》荻原博行（本部理事）
- 政府出展技能の館庭園展示
《施工期間》2007 年 11 月 8 日から 11 日
《研修生》矢田青年部長以下 10 名

世界で日本をアピール。若者の挑戦は続く。

第40回技能五輪国際大会 「カナダ・カルガリー大会」



- 開催年月日／2009年9月1日から6日
- 開催場所／カナダ・カルガリー・スタンピート公園
- 参加国／15カ国
- 選手／石井志郎（福岡県支部・有ジープレーン）
白石勇人（福岡県支部・有若松緑地建設）
- エキスパート／井上花子（本部）、通訳／今田康正（香川県支部・今田作庭園）
- サポート・応援団／22名
- コーチ／山本辰雄（福岡県支部・小嶺造園）
福山門八（福岡県支部・福山造園建設）
- 結果／8位敢闘賞（金メダル／ドイツ）



【カルガリー大会・イメージスケッチ】



【上】カルガリー大会課題
【下】選手と応援団

第41回技能五輪国際大会 「イギリス・ロンドン大会」



- 開催年月日／2011年10月4日から9日
- 開催場所／イギリス・ロンドン・エクセルロンドン
- 参加国／16カ国
- 選手／藤崎賢博（山口県支部・有岡部造園）
猪野直紀（山口県支部・株高山造庭園）
- エキスパート／加藤輝昭（東京都支部・有加藤園）
通訳／今田康正（香川県支部・今田作庭園）
- サポート・応援団／25名
- 結果／9位敢闘賞（金メダル／スイス）



【ロンドン大会・イメージスケッチ】



【上】ロンドン大会課題
【下】選手と応援団

■第 26 回全国都市緑化おかやまフェア



【おかやまフェアデータ】

開催日程／平成21年3月20日～5月24日

会場／岡山市西大寺地区

出展庭園区画／横5.3×奥行7.1m

施工日程／第1期：平成21年1月19日～21日

第2期：3月5日～6日

《金賞、来場者人気投第1位》



■第27回全国都市緑化ならフェア



庭園のタイトルは「せせらぎの里に聞く秋の詩(うた)」。遠い昔から慣れ親しんできた里山の秋の風情を表現した。

石積みは自然のままの表情を生かした野面積み、ひとつひとつどっしりとした安定感をもたせ丹念に積み上げた。

流れにはセキショウをあしらった蛇籠を配して、せせらぎの表情に変化を与え庭全体に趣を添えている。

延段は、さざれ石を使ったあられこぼし、アプローチは土系舗装材を使用して段差や起伏のないバリアフリーとした。舗装面には小石でトンボの図柄を散らし、秋らしさを楽しく表現している。

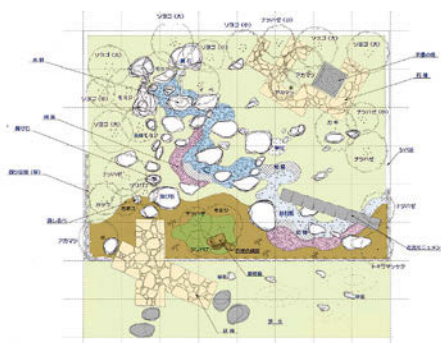
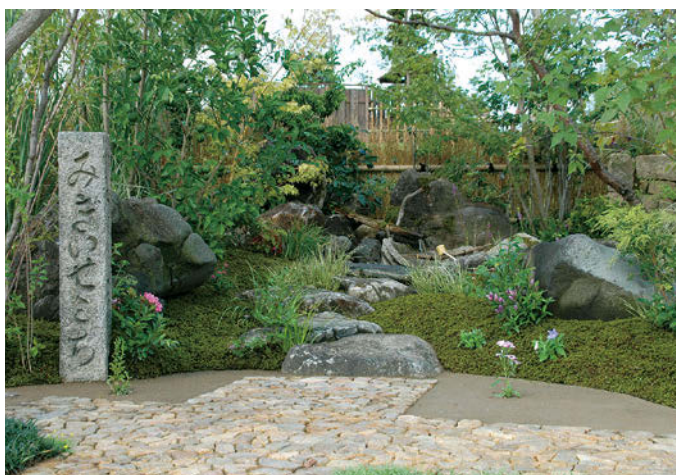
作庭は研修会方式で行い、技術技能委員が中心となって指導者を務め、関西ブロック各支部より参加した研修生(1級造園技能士)等が施工にあたった。

フェア期間中、1級女性技能士による庭づくり実演や、熟練技能者が指導する竹垣づくり実演、一般来場者が参加する垣根の結束体験教室等も行い、多くの来場者に造園技能をPRした。





【左】石積みと五重塔
【下】土系舗装に小石のトンボ



造園連組合員の指導で、一般来場者も垣根の結束を体験



1級造園女性技能士による庭づくり実演

【ならフェアデータ】

開催日程／平成22年9月18日～11月14日

会場／馬見丘陵公園（奈良県北葛城郡広陵町・河合町）

出展庭園区画／8×6m

施工日程／第1期：平成22年8月17日～19日

第2期：9月7日～9日

実演日程／10月11日：20代女性1級技能士による庭づくり実演、11月6日：竹垣づくり実演

《金賞》



第 28 回全国都市緑化かごしまフェア



庭園のタイトルは「風光る春萌えの暮らしの庭」。吹き抜ける風に春を感じる、まちの小さな空間をイメージしてデザインした。

伝統技法に新しい技法を交えて作庭し、落ち着いた佇まいに仕上がっている。

小舞垣は、土堀の下地にする方眼に組んだ細い竹を生かして、現代的なセンスに仕上げた。

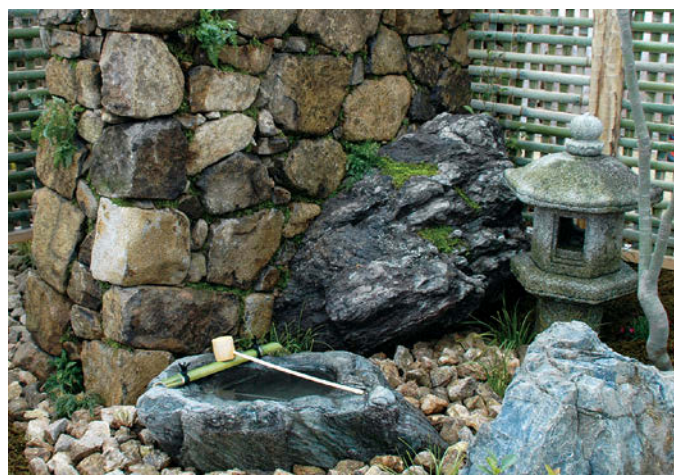
柱の栗丸太は、手斧（ちょうな）でなぐってある。2つの小舞垣に、野面積みと景石を組み込み、さらに手前の植栽とのバランスで、空間に大きな広がりや奥行きをもたせた。

モミジ、コナラなど株立ちの樹木を枝の個性を生かして植え、足元は草花やコケが彩り、野面積みもコケや草花で緑化され、力強さとともに柔らかな雰囲気を出している。

塗り壁はジョリパット仕上げ。

作庭は研修会方式で行い、技術技能委員が中心となって指導者を務め、九州ブロック各支部より参加した研修生（1級造園技能士）等が施工した。





【かごしまフェアデータ】

開催日程／平成23年3月18日～5月22日

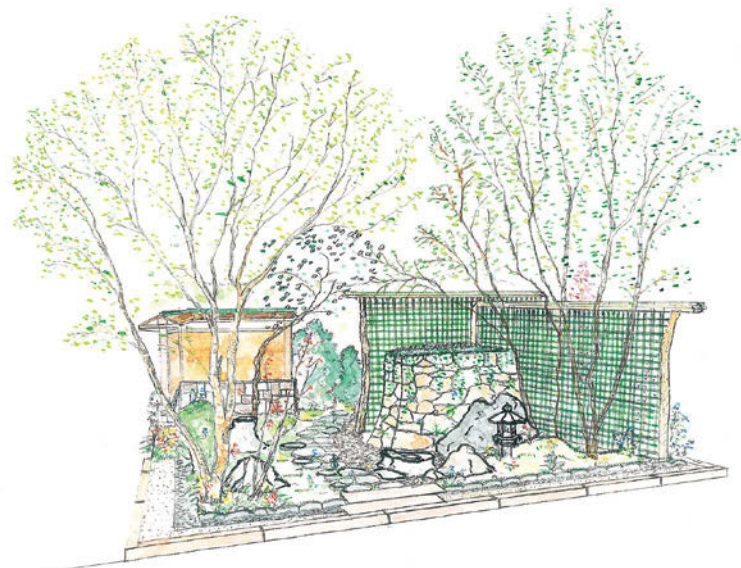
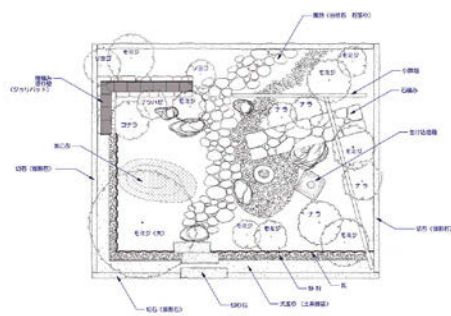
会場／吉野公園（鹿児島県鹿児島市吉野町）

出展庭園区画／5.5×4.5m

施工日程／第1期：平成23年2月10日～12日

第2期：3月8日～10日

《優秀賞》



■第 29 回全国都市緑化フェア TOKYO



2つの庭「楽しく遊ぶ庭」「和モダンの小さな庭」を、緑化フェア期間中である10月6日、7日の2日間で作庭した。「技を生かす庭づくり塾」の一環として実施したもの。

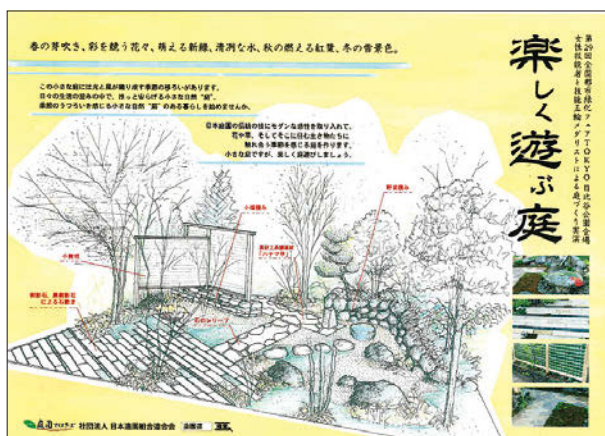
一般来場者が見守るなかの、庭づくり実演であり、技能五輪全国大会のメダリストと全国の支部より推薦された女性技能者が作庭にあたった。

「楽しく遊ぶ庭」は庭づくり塾の課題庭園。

6×4mの区画で、石積み（野面、小端）、石組み、小舞垣、敷石、園路、植栽などで構成され、アプローチガーデンとしての機能と中庭としての機能も持っている。

「和モダンの小さな庭」は、5.3×3.3mの区画で、銀閣寺垣、揚簀戸、野面積み、延段、竹の花籠などで構成される伝統的な造園技法を生かした庭のデザインとなっている。

実演中は、多くの来場者が足を止め、庭が出来上がる様子を見入っていた。





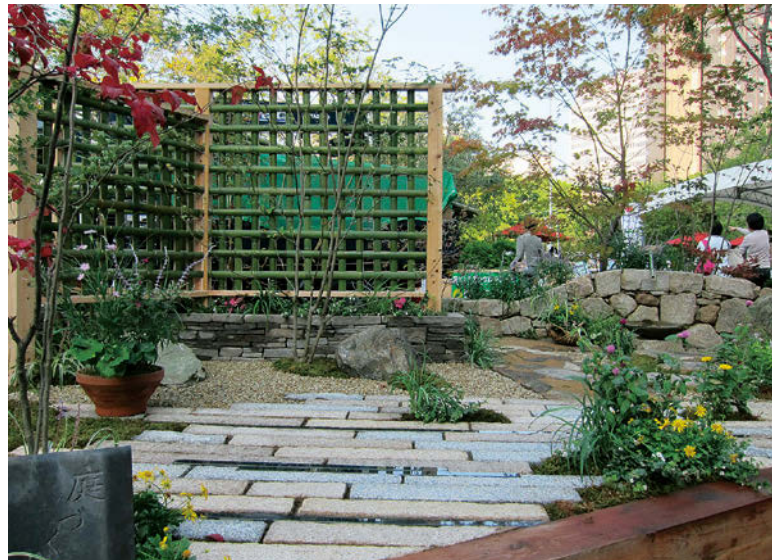
【TOKYO フェアデータ】

開催日程／平成 24 年 9 月 29 日～ 10 月 28 日

会 場／日比谷公園（東京都千代田区）

出展庭園区画／6×4m、5.3×3.3m

施工日程／平成 24 年 10 月 6 日～7 日



技を生かす庭づくり塾

厚生労働省ものづくり立国の推進事業のひとつとして、平成24年度より「技を生かす庭づくり塾」をスタートさせた。2日間の庭づくり実技研修を通して、多彩な造園の伝統技法を学ぶとともに、伝統技法を現代の庭づくりに生かす工夫なども学べる内容になっている。作庭する庭園（6×4m）のコンセプトは、「楽しく遊ぶ庭」。アプローチガーデンとともに中庭の機能をもっているデザインで、野面積み、小端積、小舞垣、石張・園路、石のレリーフ、植栽などで構成されている。

平成24年度は全国5会場（福島・東京・富山・広島・佐賀）で庭づくり塾が開催され、計160名が受講した。全国の5会場とも、課題庭園のデザインは同じであるが、材料の産地や会場環境の違いにより、それぞれ異なった雰囲気の庭に仕上がった。技を生かす庭づくり塾は、25年度も全国4会場で開催が予定されている。



■福島会場



開催日／平成24年9月1日（土）～2日（日）

場所／緑水苑（郡山市喜久田町赤津）

復興支援の取り組みのひとつとして、福島会場で庭づくり塾が開催された。東北ブロック各支部に呼びかけ、30名が研修生として参加。そのほか見学者も23名あった。庭園を拡張して、まわりにも土系舗装などによる園路を設け植栽をし、完成した庭園は、四季を彩る庭と名付けられた。



■富山会場

開催日／平成24年10月13日（土）～14日（日）

場所／チューリップ四季彩館（砺波市中村100-1）

北陸ブロック各支部に参加を呼びかけ、33名が研修生として参加した。多くの来場者が訪れるチューリップ四季彩館の駐車場広場に庭園が施工された。



■東京会場

開催日／平成 24 年 10 月 6 日（土）～7 日（日）

場 所／日比谷公園（東京都千代田区） 参加者数／28 名

全国都市緑化フェア会場にて庭づくり実演を兼ねて開催され、全国各支部より推薦された女性技能者と技能五輪全国大会のメダリストが研修生として参加し、多くの来場者の前で庭を完成させた。詳細・写真は緑化フェアの頁に掲載。

■佐賀会場



開催日／平成 25 年 1 月 12 日（土）～13 日（日）

場 所／佐賀県立高志館高等学校（佐賀市大和町大字尼寺 1698）

九州ブロックの各支部に呼びかけ、40 名が研修生として参加した。見学者は 90 名あり見学者向けの石積み教室を開催した。会場となった高志館高校の生徒も、仕上げ施工など参加し庭づくりの喜びを体験した。



■広島会場



開催日 平成 25 年 1 月 26 日（土）～27 日（日）

場 所 中央市場花満（広島市西区草津港 1-8-1）

中国ブロック各支部に呼びかけ、29 名が参加して課題庭園を施工した（見学者 7 名）。また、庭づくり塾の材料を活用して、ひろしま菓子博会場に、新たに庭園を施工し、菓子博の期間中展示した。



ひろしま菓子博 2013「和のかけはし」

造園実習指導力向上研修会

農業高校、短大、専門学校など造園関連の学校の教員を対象にした実技研修会を、平成22年度より毎年開催している。

熟練技能者である造園連組合員が講師となり、造園の基本技能、作業のポイントなどを教員の方々に伝え、現場作業を体験してもらう内容。教員の方々が学校の授業をすすめるうえで、少しでも役立つよう支援を行っている。

初年度の22年度は1会場（静岡）のみの開催であったが、研修会は大変好評で、各地で継続要望があったため、23年度は全国3会場（静岡、大阪、山口）で開催した。内容への要望も多様化し、24年度は3つの研修コース（初級・中級・五輪）を設定して、全国3会場（東京・京都・山口）すべてで希望するコースの研修が受けられる体制を整えた。研修会は未来の造園技能者育成に寄与するだけでなく、学校間の交流や、学校と造園施工業界との交流活性化にも貢献している。

研修会は今後も毎年開催する予定。

開催日程	会 場	参加人数
平成23年2月5～6日	静岡会場 三島商工会議所会館（学科） （株）矢藤園長泉農場（実技）	40名
平成24年2月4～5日	静岡会場 （株）矢藤園長泉農場	17名
平成24年2月4～5日	山口会場 山口県立宇部西高等学校	25名
平成24年2月11～12日	大阪会場 大阪造園土木（株）堺支店	18名
平成25年2月2～3日	東京会場 東京都立農業高等学校	41名
平成25年2月9～10日	京都会場 京都府立農芸高等学校	28名
平成25年2月16～17日	山口会場 山口県立宇部西高等学校	17名



研修会のテキストとして「造園初級技能の手引」、「造園工具ガイドブック」を作成。造園連ホームページで公開している

■初級コース

2級造園技能検定の課題を作製する。1人作業。区画2m×2.5m。



【上】2級技能検定課題の作業の様子

【右上】2級技能検定課題の作業ポイントを説明

【右下】完成した課題の講評に聞き入る研修生



■中級コース

課題庭園の作製。金閣寺垣、石組、飛石、植栽、整地等。区画 $3 \times 2.5\text{m}$ 、2名一組作業。



【左】作業の様子
【上】完成した課題の講評

■技能五輪コース

課題庭園の作製。石積、石張、小舗石の敷設、流れ、植栽、整地等。区画 $3\text{m} \times 3\text{m}$ 。2名一組作業。



【右】五輪コース完成課題
【下】完成した課題の講評



震災復興に役立つ 「人力による運搬組立て工法研修会」

人力で重い石材や樹木等を運搬する、三又・二又など造園の伝統技法を学ぶ研修会を、平成23年8月25日～26日、(株)矢藤園長泉農場(静岡県駿東郡)にて開催した。

これらの工法は電源や燃料は不要なため、機械類が入らない場所で移動作業が発生した際や、震災の現場復興に役立てることができる。研修生は、造園業界の次世代を担う技能者を対象に募集し、各地から18名が参加した。

研修では熟練技能者が講師となり、丸太とチェーンブロックを使った三又、二又や、ぼうず(一本柱)による移動・組立、コロ・ソリを使った運搬、丸太と縄を使うかつぎ運搬などが実施された。

またこの事業は、全国各地へ工法の普及を図ることを目的としており、研修会で使用したテキストをさらに充実させて、研修後には「人力による運搬組立て工法の手引」を発行し、テキストを活用して東京・神奈川・長崎等で講習会が実施された。



『人力による運搬組立て工法の手引』
①玉掛けの基本、②重量物の運搬法、
③施工時の重量物の移動と組立ての
3章で構成。A4判、21頁。安全
管理を重視しながら、図や写真を多用
し、わかりやすくとりまとめた。



三又を使って樹木を軽トラックに積み込む



二又を使い、灯籠を組み立てる



【左】三又の結束を研修生全員が体験 【右】班別に三又を立ち上げる



【上】ぼうず(一本柱)による樹木の移動
【左】丸太によるかつぎ



ムカデとソリによる運搬

女性技能者育成に向けた 技能向上研修会、庭づくり実演

【第1回技能向上研修会】

■開催日／平成23年9月10日～11日

■場所／小杉造園株熱海研修所（熱海市伊豆山）、

■参加者数／23名

■作庭区画／3m×3.5m

■研修内容／竹垣（臥竜垣）、石積み（野面積み）、石張、園路・延段、植栽等の要素で構成する庭づくり研修会。2種類の庭を完成させた。

【第2回技能向上研修会（庭づくり実演）】

■開催日／平成23年10月22日～23日

■場所／日比谷公園（東京都千代田区）

■参加者数／22名

■作庭区画／3m×5m

■研修概要／9月の研修内容をベースに、研修生を中心に庭園デザイン案をまとめ、2日間にわたる作庭実演で「絆をつなぐ希望の庭」を完成させた。

業界の中核を担う女性技能者育成にむけ、平成23年度、女性技能者を対象にした技能向上研修会を開催した。全国規模での女性造園技能者研修会は、業界初の試みとなった。

全国の造園連支部に呼びかけ、造園技能士資格をもつ女性技能者を推薦してもらい、北は宮城県から南は長崎県まで20名余が参加して研修会が行われた。

9月に熱海にて庭づくり研修、10月は東京の日比谷公園ガーデニングショー会場にて、揃いのジャンパーで庭づくり実演にチャレンジし、大勢の来場者が見守る中で庭を完成させた。

庭園は、東日本大震災からの復興を願い応援する気持ちを込めて、「絆をつなぐ希望の庭」と題し、干支の竜にちなんだ臥竜垣や希望を表す灯りを使い、復興にむけて立ち上がる思いを表現した。

これらの研修会は、女性技能者の全国的な情報交流のきっかけにもなり、今後の女性技能者育成にむけた大きな第1歩となった。



「絆をつなぐ希望の庭」

平成23年の干支「竜」にちなみ、臥竜垣で復興に向けて立ち上がる竜を表現した。震災で倒れた灯籠の「火袋」を再利用し、灯りを入れて希望の光に。



女性技能者庭づくり実演 完成庭園



熱海研修 完成庭園パターン1【左】とパターン2【右】



熱海研修 作業の様子



女性実演研修生と講師陣



大勢の見学者が見守る中で、庭づくり実演が行われた

東日本大震災の復旧復興支援活動 造園の技術技能を活かしてボランティア



東松島市に贈呈した「ひだまりの庭」

仮設住宅へコミュニティガーデンを贈呈 宮城県東松島市「ひだまりの庭」

未曾有の大災害となった東日本大震災の復興のため専門技能を生かした支援活動を行うことが決議され、宮城県支部に現地調整をお願いし、宮城県内の2箇所の仮設住宅にコミュニティガーデンを作庭し、寄贈した。

設計に当たっては、不自由な生活を強いられている入居者の要望をヒヤリングしたうえで、設計し、資材施工などについて造園連新聞でボランティアを募ったところ、資材の協力、施工ボランティアが青年部を含めて21名参集し、平成24年3月7日より10日まで、宮城県東松島市矢本グリーントウン仮設住宅に「ひだまりの庭」を、仙台市若林区東通仮設住宅には、「みんなが集うやすらぎの庭」を作庭し、4月11日に白井理事長以下四役が出席して、贈呈式を行った。

不自由な仮設での生活にうるおいやみんなが集まる場ができた、子供たちが遊ぶ場ができた大変喜ばれ、仙台市ホームページや地元新聞でも大きく取り上げられた。



【上】チェーンソーアート
【下】「ひだまりの庭」施工



仙台市若林区東通仮設住宅に贈呈した「みんなが集うやすらぎの庭」

仙台市若林区「みんなが集うやすらぎの庭」

仙台市若林区東通仮設住宅に贈呈した「みんなが集うやすらぎの庭」は、津波ですべてを失った仙台市若林区荒浜地区の皆さんの思い出を再現した思い出の道を中心に、臥龍垣（龍年にちなんだ希望の象徴）、石積み、チェーンソーアートで作ったベンチなどで構成されている。

全国各地よりのボランティアの参加者に、技術研修の機会になるようにも工夫されている。また、ソーラー利用で灯籠に夜間明かりをともしたところ、65歳以上の高齢者が多い仮設住宅の住民の皆さんからは、夜間明かりがついているとほっとすると喜ばれた。

作庭後も花の植え替えなどで交流は続いている。



みんなが集うやすらぎの庭に設けられた「思い出の道」



施工途中



参加者一同



贈呈式



長野県栄村に造園技術を活かして作成された花壇

長野県栄村「技を活かした花壇」

東日本大震災の翌日に震度6強の余震に襲われたもう一つの被災地長野県北部の「栄村」の復興支援のため、24年6月30日と7月1日の2日間長野県支部が中心となり、技を生かした花壇を仮設住宅などに作成、贈呈した。

冬は3mを越す豪雪地帯のため、植栽などの養生が心配されたため地元の要望もあり、技を活かした花壇を作成した。参加者は40名。



花壇の施工



【チェーンソー活躍】

東日本大震災発生直後の緊急支援として、ガレキなどの処理のため、大型チェーンソーを賛助会員のハクスバーナ・ゼノア(株)、(株)やまびこの協力により20台を贈呈し、津波により倒れた防風林の倒木を伐採撤去処理に活躍した



ハクスバーナ・ゼノア(株)より無償提供頂いたチェーンソー

震災直後の復旧ボランティア

●震災直後の復旧ボランティア

東京都支部八王子分会始め東京都・山口県青年部有志・京都府大阪府など全国の組合員青年部の有志延べ 500 人以上が宮城県岩沼市、山元町の被災地の瓦礫の片付けにボランティアとして片付け作業を行った。

特に造園業者としてきめ細かい作業と植木などの対処もできることで被災者の皆さんから頼りにされた。



宮城県岩沼市・山元町でのボランティア



東日本大震災組合員の被災状況と 救援見舞金

東日本大震災による被災された組合員は、死亡 5 名、建物の全壊半壊 43 名その被害は岩手県、宮城県、福島県、茨城県、栃木県と広範囲に及んだ。

造園連は直ちに組合員に対して救援見舞金をお願いしたところ、約 1 ヶ月の短い期間に北海道から沖縄までの組合員から 16,500,136 円の多額の見舞金を拠出してもらい、集まった見舞金を 23 年 4 月 26 日開催の理事会において、東北ブロックへ贈呈した。

【組合員の被災状況】

亡くなられた方 5 名

遠藤一男	宮城県支部
横山峰夫	〃
横山茂生	〃
横山伸生	〃
斉藤常市	〃

全壊・半壊

宮城県支部	38 名
岩手県支部	4 名
栃木県支部	1 名



居久根にまもられた仙台市・狐塚（2011.9）